# 東日本大震災　石巻市復興支援活動
# 実施報告書

２０１１年5月２７日

横山泰治

目次

１. 実施概要･････････････････････････････････････････ P2

２. 活動概要･････････････････････････････････････････ P2

３. 実施結果･････････････････････････････････････････P3

４. 実施結果詳細

（1） 準備スケジュール･････････････････････････････････P4

（2） 実施スケジュール･････････････････････････････････P5

（3） 被災者・ボランティアヒアリング結果･････････････････ P6−7

## 1. 実施概要

【 実施日時 】2011 年 5 月 25 日(水) 15:30 ー 5 月 26 日(木) 21:00

【 実施場所 】東京都調布市、宮城県石巻市

【 実施者 】仮称)調布から！東日本大震災復興プロジェクト

実施者　　:横山 泰治 (NPO 法人市民活動推進協会 理事長)
　　:大須賀浩裕 (調布市議会議員 議長)
物資協力　　:調布市被災者支援ボランティアセンター・国立大学法人電気通信大学
物資マッチング協力:調布市被災者支援ボランティアセンターボランティアスタッフ

## 2. 活動概要

- 東日本大震災被災地**・宮城県石巻市への復興支援活動に向けて、事前調査**と支援(救援？)**物資搬送**。実施団体として**初の現地での活動**。メンバーによる個別活動を含めると **5 回目の災害支援活動**。
- **今後の復興支援活動内容**について、**石巻市、石巻市商工会議所、石巻市観光協会、石ノ森萬画館**と打合せを行った。
- 救援物資は**味の素スタジアムの調布市被災者支援ボランティアセンター**物資と**国立大学法人電気通信大学**有志で用意。**救援物資マッチングサイト**「ボランティアプラットフォーム」で**ニーズ確認の上、物資を手配**。
- 現地状況把握のため、**被災者**及び**現地ボランティア従事者へのヒアリング**を物資搬送と同時に行った。
- 輸送は **2 ドライバー交代制**。搬送経路は東京都調布市から**東北道仙台経由**で宮城県石巻市へ。調布市から**緊災派遣等従事車両証明書**を受領し使用。

## ３. 実施結果

- 3 月 11 日の東日本大震災以降、調布市と石巻市間で実施された支援活動を、長期継続的な活動とするため、現地の復興にかかわるキーパーソンと復興支援活動の打合せを行った。5 月 20 日の第 1 回準備会以降 5 日間という短い準備期間ながら、石巻市長・市議会議長・観光協会会長・商工会議所専務理事・現地観光施設責任者との会談が実現。これは、過去の石巻市への支援活動実績の認知と現地の危機意識の高まりによるところと思われる。

- 石巻市役所では、市長、市議会議長、副議長、災害対策本部責任者と会談。今後の支援活動において各担当団体と当プロジェクトが個別に事業を進めていくことを説明し、了承を得た。行政側が団体との企画を理解したことにより今後の事業の決定までのスピードアップが期待できる。

- 石巻市の観光施設である「石ノ森萬画館」では、指定管理者の代表取締役社長、統括部長と会談。「石ノ森萬画館」は建物は無事だったが展示及び（　）が被災し、現在閉館中。再開は秋以降が予想される。再開までの間、施設内で販売予定だったグッズの一部を、調布市内で販売することについて了解された。復興についての現地の志気維持と調布市内での復興支援意識の維持が期待できる。

- 社団法人石巻市観光協会では会長、専務理事と会談。市内観光事業者や産物事業者の本格再開は来春以降の可能性あり。本格稼働までの間に順次生産が再開された石巻市の物産を調布市内で販売することについて了解された。上記現地観光施設への支援と同様の効果が期待できる。

- 石巻市商工会議所では専務理事、観光部会長、現地企業の工場長と会談。8 月に開催予定の石巻市川開き祭りへの支援のほか、市内企業への支援や人的交流について今後継続検討されることを決定した。今後の継続的な情報交換と打合せが必要。

**主要インデックス**

| | スコア |
|---|---|
| 調整対象人数・団体数 | 20 人・4 団体 |
| 支援物資 | 約 20 品目 |
| ボランティア総人数 | 約 20 名 |

- 被災者及び現地ボランティア従事者へのヒアリングでは、市内でも支援の程度に格差があるほか、未だ復興の手が届かない地域が多いことが判明した。大規模支援が届きにくいエリアがあることから、小規模ユニット制を含めた支援が必要。

## 4. 実施結果詳細

(1) 準備スケジュール

| 日 | 概要 | 手段 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 5/18 | 企画発動 | | |
| | 関係各所へ問い合わせ | メール | 宛）石巻市役所 |
| 5/20 | 受入先から回答 | メール | 5/26 のスケジュール案の提示 |
| | 仮称）調布から！東日本大震災復興プロジェクト 準備委員会 | 会議 | 支援目的・対象支援内容案策定 |
| 5/21 | 物資準備開始 | | 調布市被災者支援ボランティアセンター及び電気通信大学に発信 |
| | 支援物資のマッチング開始 | Web | ボランティアプラットフォームに登録 |
| 5/22 | 現地ボランティアスタッフと連絡 | 電話 | 物資引き渡し時間と場所を確認 |
| 5/23 | 現地ヒアリング対象者と連絡 | 電話 | 物資引き渡し時間と場所を確認 |
| 5/24 | 日程最終確認 | メール | 宛）石巻市役所 |

(2) 実施スケジュール

| | 計画 | | 実際 | | ※赤字は実際行動補足等 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日 | 時 | 分 | 時 | 分 | 場所 | 行動 | 備考 |
| 5/25 | 16 | 30 | 16 | 00 | 調布市内 | 集合 | ツバサモータース |
| | | | 16 | 40 | 首都高速幡ヶ谷インターチェンジ | 高速道乗車 | |
| | | | 17 | 30 | 佐野 IC | 運転手交代 | |
| | | | 20 | 40 | 仙台 | 高速道下車 | |
| | | | 20 | 45 | 仙台市内スーパー | 物資購入 | 食料品 |
| | | | 21 | 15 | 仙台港南インターチェンジ | 三陸道乗車 | |
| | | | 21 | 15 | 松島 | 三陸道下車 | |
| | 21 | 30 | 22 | 00 | 石巻市 | 石巻市到着 | 石巻市役所付近 |
| | | | 22 | 10 | 石巻駅付近駐車場 | 支援物資引渡 | ボランティア島田氏【ケース1】 |
| | | | 23 | 00 | 石巻市開北 | 宿舎到着 | 笑門館 |
| | | | 23 | 30 | 宿舎付近 | 食事 | 被災者【ケース2】とも直接会話 |
| | | | 26 | 00 | 宿舎 | 宿舎戻り | 5/2 スケジュール確認 |
| | | | 26 | 15 | 宿舎 | 就寝 | |

| | 計画 | | 実際 | | ※赤字は実際行動補足等 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日 | 時 | 分 | 時 | 分 | 場所 | 行動 | 備考 |
| 5/26 | 6 | 30 | 6 | 00 | 宿舎 | 起床 | |
| | | | | 20 | 石巻市国道沿い | 朝食 | |
| | | | 6 | 30 | 石巻周辺 | 写真記録 | |
| | | | 8 | 30 | はやし珠算教室 | 物資引き渡し | 【ケース3】電通大提供辞書・参考書 |
| | | | 9 | 20 | 石巻市役所 | 担当者とあいさつ | |
| | 9 | 30 | 9 | 25 | 石巻市役所議長室 | 議長・副議長会談 | |
| | | | 9 | 40 | 石巻市長室 | 市長と会談 | |
| | | | 10 | 10 | 石巻駅周辺 | 支援物資引き渡し | 【ケース4】基礎食糧 |
| | 10 | 10 | 10 | 20 | 石ノ森萬画館 | 担当者と打ち合わせ | |
| | 11 | 30 | 11 | 30 | 石巻市観光協会 | 会長・専務理事と打合せ | |
| | 12 | 30 | 12 | 50 | 石巻市商工会 | 専務理事と打合せ | |
| | 12 | 30 | 13 | 30 | 石巻市商工会出発 | | |
| | | | 14 | 00 | 石巻市役所 | 出発準備 | 残余物資を引き渡し |
| | | | 15 | 30 | 石巻河南インターチェンジ | 高速道乗車 | |
| | | | 20 | 00 | 外環道練馬インターチェンジ | 高速道下車 | |
| | | | 21 | 00 | 調布市観光案内所前 | 解散 | |

⑶ 被災者・ボランティアヒアリング結果

【ケース1】25 日夜　50 代男性

本人申告状況
：沖縄から個人ボランティアとして石巻市内で活動して1ヶ月。がれきの撤去及び被災住宅のリフォームボランティア。食事は 1 日 2 食で対応。市内の「松厳寺」避難所をベースに活動し、支援者によるアパートで宿泊。

客観的状況
：本人自家用車にて移動。車内に工具等を満載して、個人ボランティア仲間 3 人とチームで活動をしているとみられる。現在そのチームにて NPO 法人設立を検討。申告内容については今後確認が必要。

即時対応及び今後対応
：搬送支援物資の衛生用品と一部学用品、義援金にて購入した食料品を提供し「松厳寺」避難所への支援を委託。今後。第一次支援として「松厳寺」が自宅避難者者への物資提供場所になっていることから松厳寺への物資支援を行う。また、状況の把握をしたうえで松厳寺及び近隣でボランティア活動場所としている県営住宅への支援を検討。

【ケース2】25 日夜　40 代女性
本人申告状況
：被災後津波に追われ近隣幼稚園に避難。その後幼稚園の再開に際してできるだけ自宅避難の案内があったため、1 階は被災していたものの自宅 2 階に避難。自宅避難後は後救援物資と情報が一切入ってこないため自家用車で各避難所を巡回。避難施設にて救援物資を受け取ろうとしたところ自宅避難者は別の列に並ぶよう指示された。
現在は物資不足のため男性用の下着を着用しながら生活。

客観的状況
：26 日午前に申告者自宅周辺を確認。がれきと津波によって破損した車両及び汚泥は
半分程度の除去。異臭及び粉塵は深刻。付近の通学生徒はマスク着用。付近情報収集により窃盗団も横行しているとのこと。

即時対応及び今後対応
：搬送支援物資から女性用下着を 30 枚手配。近隣の同状況者に配布を依頼。
今後、段ボール
2 個程度の小ユニット物資を送付し、近隣同状況者に配布を依頼。

【ケース3】26 日朝　60 代女性

本人申告状況
:市内にてそろばん塾を夫妻で経営。珠算全国チャンピオン輩出実績あり。今回の震災で生徒 24 人が行方不明または死亡。経営している珠算塾及び息子夫妻が経営する幼児教室の物資はすべて被災児童に提供。

客観的状況
:26 日朝に現地確認。津波の被害が大きい沿岸部で自宅兼珠算塾・学習塾を経営。従業員・講師は解雇し、失業保険にて待機。がれきと津波に夜被害は撤去・対応済。通学する生徒あり。付近の学習塾・公文教室への支援物資配布を了承。

即時対応及び今後対応
:搬送支援物資から電気通信大学提供の辞書・参考書及び学習室の余剰物資の 7 割を手配。今後、付近学習塾への配布を了承してくれたことから学習物資の配送が可能

【ケース4】26 日朝　30 代女性

本人申告状況
:本人自宅は床上浸水。家族・親類が自宅全壊及び解雇処分のため生活に不安あり。基礎食糧品（米・調味料）が必要。

客観的状況
:本人自家用車にて移動。本人自身はそれほど表情、服装に憔悴は見られない。子どもが幼いため精神的な不安を隠せない様子が見受けられる。近所の家族や環境に対しての質問には明確な回答がないことから、ピンポイント支援で終わってしまう可能性もあり。

即時対応及び今後対応
:搬送支援物資から基礎食糧（米 20kg、調味料）を手配。今後対象者周辺の状況把握をしたうえでの支援を検討。